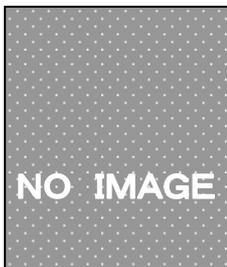


ちょっとあじみ

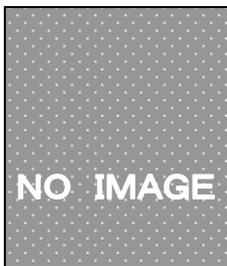
「よだかは、実にみにくい鳥です。」

みにくさゆえに、ほかの鳥からも嫌われ、鷹からは、「よだか」の名前を変えるよう、せまられます。そして、かぶとむしや、たくさん羽虫を食べて生きている自分……とうとう、よだかは（僕は遠くの遠くの空の向こうに行ってしまう。）



ちょっとあじみ

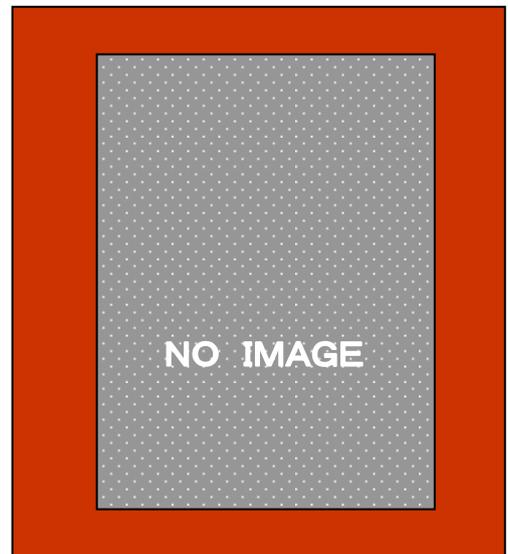
30^{びき}疋のあまがえるが、一緒に毎日面白く仕事をしています。ある日、仕事を終えて引き上げる途中、「舶来ウエスキイ」とかいてある一軒の、とのさまがえるのお店をみつけます。あまがえるたちは、そのお酒を気に入り、どんどんのんでしまいます。しかし、その代金を支払うことができずに、とのさまがえるの家来になることに…



ちょっとあじみ

うろこぐもたちこめる月夜、恭一が、鉄道線路の横を歩いて、駐車場のあたりがきれいに見えるところまでくると、突然、不思議な出来事が起こります。それは一、「さっきから線路の左がわで、ぐわあん、ぐわあんとうなっていたでんしんばしらの列が、大威張りでいっぺんに北のほうへあるきだしました。」

今回のおすすめメニュー



新版 宮沢賢治童話全集5
「よだかの星」

宮沢賢治 作/岩崎書店

請求記号: 913ミ

所蔵館: 中央・石川・勝連

7編の童話を収録。

- ★ カイロ団長
- ★ 月夜のでんしんばしら
- ★ シグナルとシグナレス
- ★ 氷河ねずみの毛皮
- ★ よだかの星
- ★ からすの北斗七星
- ★ 水仙月の四日

読むたびに、新たな感想が広がり、何度も読み返したくなる、宮沢賢治の童話。宮沢賢治の魅力的な作品の数々にふれてみましょう。